

Bulletin

(第3種郵便物認可)

鉄鋼

(2)

## 藤澤鋼板

# 加工7万トンを超目指す

## 鉄腕レベラー 生産さらに効率化

有力コイルセンターの藤澤鋼板（本社千葉県浦安市鉄鋼通り、藤澤鐵雄社長）は今期（2014年6月期）、加工量7万トンを目指す。プロパー販売を増やすとともに、大幅リニューアルした熟延レベラーの高い品質・生産性を生かし、受託加工も積極的に取り込んでくる。



藤澤社長

昨年村山鋼材との「設備の合理化」と「加工の相互協力」による協業体制に移行し、自社のレベラー加工は1基体制となったが、拡販努力を積み上げ、2基体制並みの

加工量を確保する。鉄腕レベラーは年間4万トンを、スリッターラインは同3万トンを狙う。足元はトラックや建築向けが好調で、稼働率は100%を超えている。シャーリング部門を担う子会社のベストスチールでは、残業対応が毎日続く。下期にかけて、乗用車向けも向上していくことが見込まれ、建設機械向

けも復調の兆しが見られる。鉄腕レベラーは受注拡大に向け、さらなる生産効率化を進める。現在、ボトルネックとなっている梱包作業の合理化を進めているほか、構内物流の改善にも取り組む。母材や製品置き場の整理を実施している。また、新たに元従業員のリベラーの営業担当を1人増やし、安全対策も強化し

ている。前期は昨年6月から旧熟延レベラーの撤去工事に入り、新ライン稼働まで、半期近くレベラー加工は外部委託となったため、加工量は大幅に減少した。レベラー稼働後は前半の落ち込みを後半で取り戻し、通期では経常利益を確保した。藤澤社長は今期の意気込みについて、「自分で自分の限界を決めず、営業も生産もキャパシティを引き上げることで、会社全体の成長を実現していきたい」と話している。